

日本民家園だより

特集 旧井岡家住宅

vol.76

企画展示「奈良の町屋 -旧井岡家住宅-」
2012年1月4日(水)～5月27日(日)
『日本民家園収蔵品目録16 旧井岡家住宅』刊行

【はじめに】

旧井岡家住宅は、奈良県奈良市高畑町より移築されました。建築年代は江戸時代中期、17世紀と18世紀の境ごろと推定され、奈良の町屋の貴重な遺構として昭和61年（1986）に神奈川県指定重要文化財となりました。

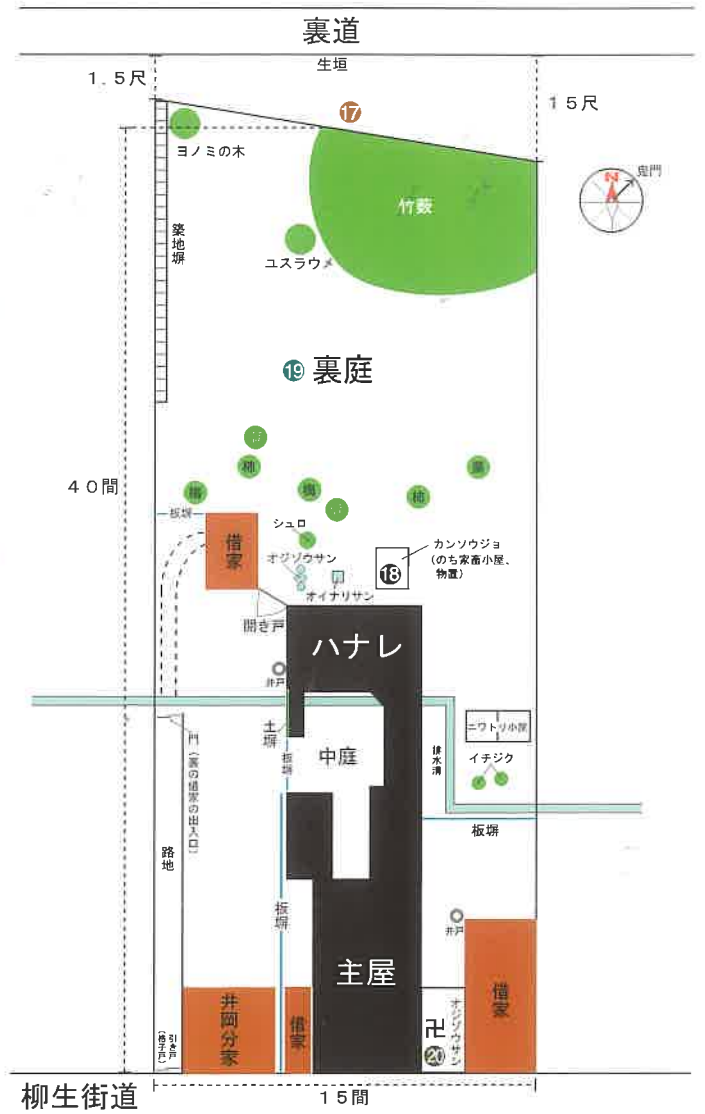
高畑町は春日大社の神官が多数屋敷を構える禰宜町です。近くには志賀直哉旧宅や新薬師寺があり、現在もなお旧道の落ち着いた町並みを見ることができます。

井岡家はこの街道沿いの町で、古くは油、後には線香の製造販売業を営んでいました。油屋の具体的な商いについての記録は残されていませんが、過去帳で油屋として名が見えるのは、天保12（1841）年に亡くなった「油屋与兵衛」が最初です。その後、家業を線香屋に改め、「線香屋新兵衛」「線香新」の屋号で呼ばれていました。第二次世界大戦により原料の入手が困難になったのをきっかけに、昭和16（1941）年ごろに廃業しました。

現在、日本民家園にある旧井岡家住宅は、街道に面した主屋部分のみを移築・復原しています。



移築前の井岡家間取り



移築前の井岡家敷地

①オオド

上に跳ね上げる「揚げ戸」で、天井から金具のついた紐が下げてあり、毎朝引き上げてこれに掛け、夕方下ろした。夜閉めた後に出入りするときは「クグリド」を使い、来訪者があったときは「デマド」という横に設けられた覗き窓から確かめていた。

②ミセノマ（東側）

油屋時代には壁のある仕事部屋、線香屋時代は土間に板を敷いた仕事場で、製造機械や線香を置くための棚があった。

③ミセノマ（西側）

線香屋時代は作業や客の応接に使われており、線香の保管場所として戸棚が置かれていた。街道側は面格子で内側にガラス戸が入っていた。

④エンダイ

折りたたみ式で、下ろすと溝をまたぐようになっていた。夏は近所の人々が夕涼みにきて将棋を指していた。

⑤のれん

長さ3尺程度（90cm）、三つ折れの中央には茶色の地に「井岡」の文字が白く染め抜かれていた。のれんの手前は明るかったため、子どもの遊び場となっていた。

⑥クド（カマド）

煮炊き用の長方形のクド。立ってマキを入れられる高さがあった。元々は西側を向いていた焚口を大正元年（1912）ごろに東向きに変えた。これは「西焚口がよくない」「火の用心に悪い」「餅搗きのとき火を越えて米を取るのが不便」などの理由があったため。

⑦オクドサン

祭祀用の丸いクド。コウジンサマとも呼ばれていた。三宝荒神を祀るもので、正月用の餅搗きのとき以外で火を入れることはなかった。

⑧ダイドコロ

家族の食事場所。食事場所がサンジョウノマに移ると、この部屋で食事をするのは正月やお盆、兄弟親戚が集まるときだけになった。

⑨ダイコクバシラ

ダイドコロとザシキのあいだ、ドマ境の柱。このダイコクバシラと対になるドマの壁側の柱を「ヒカエバシラ」といい、二本の柱をつなぐ梁を「ミツケバリ」といった。

⑩フロ

五右衛門風呂の丸い浴槽。底が熱くなるため、入るときは板を沈める。

⑪物入れ

醤油や味噌、壺に入った梅干しなどが保管されていた。物置の脇は燃料置場になっており、マキやシバ、炭などが置いてあった。木を割ったものを「マキ」、細い枝を切り揃えたものを「シバ」といった。

⑫サンジョウノマ（西側）

線香屋時代は住み込みのデッチサンたちが寝起きしていた。その後は子どもたちが勉強部屋として使っていた。親戚の親子がこの部屋で寝起きしていたこともあった。

⑬サンジョウノマ（東側）

昼敷きで掘ゴタツが設けてあり、居間として食事などに使われていた。家族の席は決まっており、北を背にした一番奥が主人の席だった。

⑭クラ

独立した建物ではなく「クラ」と呼ばれる部屋。タンスや長持、来客用の布団や座布団、祭りで使う太鼓などがしまっていた。

⑮井戸

石組みの四角い井戸枠があったが、丈は低く、子どもが覗くと落ちてしまう高さだった。飲み水やフロの水に使用していた他、畑で採れたスイカを冷やすのにも使っていた。

⑯排水溝

幅は20cmほどで、両側は石で固めてあった。ドマを横切る場所も下水管を通さず、溝がそのまま走っていただけだった。生活排水を流していた。

⑰敷地

家相上、敷地を長方形にすると北東の角が鬼門になってしまうため、15尺（4.5m）ほど削り、台形状にしてあった。

⑱カンソウジョ

線香屋時代に作業場だったと思われる。一時、家畜小屋としてヤギやニワトリを飼っていた。飼育をやめてからは物置となり、農機具や野菜などを保管していた。

⑲裏庭

植木、正月飾り用の干し柿を作るツルノコガキ、梅酒にする梅、オクドサンに供える五枚笹、栗、サカキ、ユスラウメ、シュロなどが植えてあった。畑があったので、夏にはカボチャ、ナンバ（トウモロコシ）、ナス、スイカ、マッカ（黄色いマクワウリ）など、冬はミズナなどの葉物を作って食べていた。周囲を囲っていない時代には春日大社の鹿がよく入ってきた。

⑳オジゾウサン（地藏堂）

井岡家の裏道のところに奥薬師堂というお堂があったが、明治のころ火事で焼けてしまった。本尊である木造の薬師如来像は近所の人々が救い出し、その後町内会でお堂を建てることとなった際に、井岡家が土地を無料で貸した。この際町内にはオジゾウサンがなかったため、像は薬師如来であったが地藏菩薩として祀ることとなった。毎年7月23日はオジゾウサンのお祭りを行っており、朝顔などの絵を描いた四角いチョウチンを各家の玄関に飾っていた。

（遠山健一朗、畑山拓登）

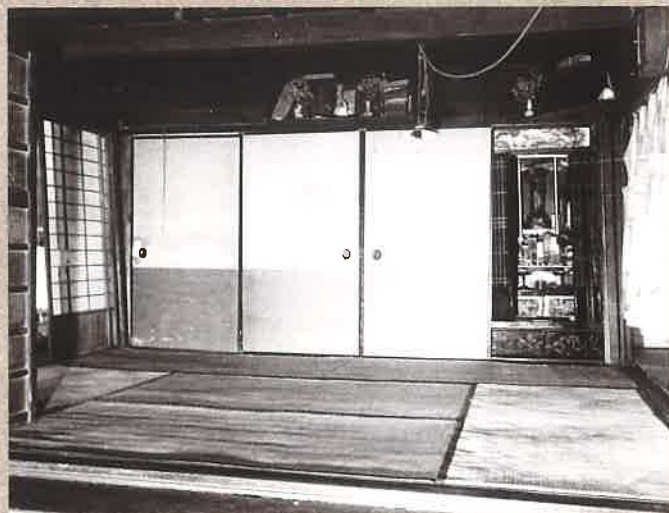
旧井岡家住宅 移築前と現在の様子



井岡家正面(昭和37年)



ドマのクド(昭和37年)



ダイドコロ(昭和37年)



ダイドコロ前のアガリエン(昭和37年)



井戸(昭和56年)



ロウカ(平成23年)

日本民家園だより vol.76 発行：平成24年1月4日

川崎市立日本民家園

URL <http://www.city.kawasaki.jp/88/88minka/home/minka.htm>

〒214-0032 川崎市多摩区枡形7-1-1 TEL 044(922)2181 FAX 044(934)8652 交通・小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [11~2月]午前9時30分~午後4時30分 [3~10月]午前9時30分~午後5時 入園は閉園30分前まで

休園日 毎週月曜(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開園)、年末年始

入園料 一般500円、高校・大学生300円、65歳以上300円(川崎市在住の方無料)、中学生以下無料